九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

炭鉱絵画・写真展-石炭からのメッセージ-の開催について

九州大学附属図書館中央図書館

https://doi.org/10.15017/1485147

出版情報：大学広報. 690, pp.1-3, 1989-10-30. 九州大学広報委員会
バージョン：
権利関係：

大学広報

No.690

平成元年10月30日発行
（編集）
九州大学広報委員会

炭鉱絵画・写真展—石炭からのメッセージ—の開催について

（石炭研究資料センター）

石炭研究資料センターが設置されて，今年でちょうど10年になります。当センターは石炭産業の歴史，現状について資料を収集し，研究を進めていくことを目的にしており，収集した貴重な資料は主として学内で展示してまいりました。この間、写真及び映像資料なども数多く収集されており，この度，当センター創立10周年記念事業の一環として，多くの方々の協力を得て，下記の要領で炭鉱絵画・写真展を開催することになりました。今回の炭鉱絵画・写真展は，炭鉱の存在が持っていた意味を絵画・写真という媒体を通して広く市民とともに考えてみたいという趣旨に基づくもので，開かれた大学をめざす試みのひとつであります。陳列は，地元作家の代表作を中心に40数点の絵画と，炭鉱の歴史や人々の生活を提示する記録性の高い約80点の写真パネルとで構成し，さらに絵画・写真の背景に関わるものとして，炭鉱に関する映像資料を用意しています。このような試み，とりわけ炭鉱絵画展はあまり例がなく，かつ日本の炭鉱がおかれている非常に厳しい状況を考えるとき，できるだけ多くの方々に鑑賞していただくことを願っています。

記

テーマ：「石炭からのメッセージ　ー炭鉱絵画・写真展ー」
会　期：1989年11月10日（金）～14日（火）　10:00 ～ 19:00
会　場：秀巧社スペースメディアＭＡ（秀巧社ギャラリー）
（福岡市中央区渡辺通5－14－9 秀巧社ビル1階）

主要出品一覧

1. 絵画の部

油　彩：

北島浅一「坑口風景」，椎野修「女坑夫」，光安浩行「生産」，千田梅二「雪のボタ山」「ボタ山」，野見山暁治「坑内の男」「ベルギーのボタ山」，松井源右衛門「炭坑の人々」，松岡英明「炭坑風景」，谷口利夫「人工島」，立花重雄「炭住」「雪のボタ山」，久保亀吉「筑豊風景A」，江田茂人「雪景」，村上英隆「露天堀」，石井利秋「水没」「いたわり（女坑夫）」，池田正臣「逆光線（豆炭工場跡）」，松尾雄一「幻のユートピア」，倉智憲夫「凝視する風景・筑豊」，村島定児「坑内群像」，宮川杜夫「廃坑」，山近剛太郎「救護隊消火作業」，佐藤幸乃「炭住の撤去」，石橋伯郎「産炭地の跡」，池松末人「ボタ山」

水　彩：

和田三造「炭坑夫」，山本作兵衛「炭坑絵」，広野司「坑夫絵」，倉智憲夫「筑豊夜情」

版　画：

千田梅二「せんぷりせんじが笑った」，江藤正雄「坑口」「水洗炭場」，中原獅郎「ボタ山」「廃礦」，うえだひろし「カッペ採炭」

2. 写真の部

炭鉱点描（戦後）：

炭鉱のある風景（三池、忠隈，菅牟田，新屋敷礦業所，日野炭礦，端島）

組合運動（日炭高松労組）

炭鉱災害

炭鉱の勃興（明治－大正期）：

炭鉱（三池，端島，菅牟田，忠隈，方城，姪浜，杵島）

炭鉱施設（坑口，積込桟橋，坑道，ポンプ座，汽鑵場，安全灯室）

労働と生活（大正－昭和戦前期）：

鉱夫群像（坑内夫，坑内事務所，坑口，選炭場）

炭鉱生活（社宅，消防方，出炭奨励行事，運動会，安全週間，配給所）

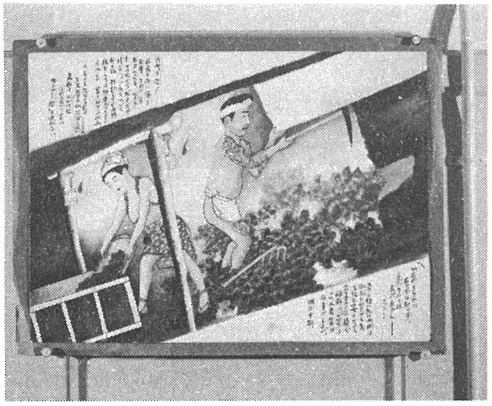
炭鉱労働運動（日本石炭坑夫組合）

戦時増産（戦時期）：

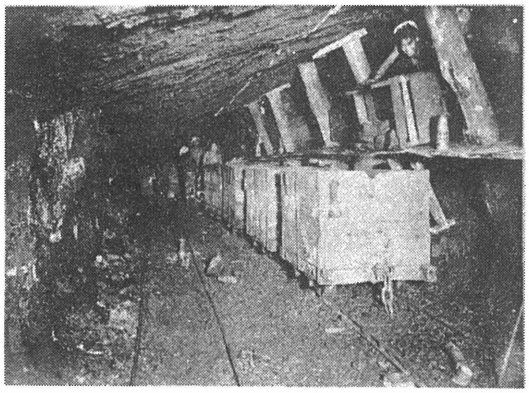
戦時増産（突撃増産，東条首相の炭鉱視察，増産鳥居，献納飛行機，銃後の幼稚園）

鉱夫諸相（少年，女子坑内夫，朝鮮人鉱夫，勤労報告隊，女子勤労報国隊，盆慰安行事，福鉱劇団来演）

北島浅一「坑口風景」（1918年）



山本作兵衛「炭坑絵」



忠隈第三坑採炭坑道（大正8，9年）